

目的 日本人の食生活の特徴と外国の食生活への適応を知る目的で、米国在住日本人の日本及び米国における食生活を比較検討した。

方法 米国に6か月以上滞在している日本人世帯を対象として、郵送によるアンケート調査を1979年12月から1980年2月に行い、回答者は62世帯で、回収率は50%であった。

結果 1, 対象: 滞在年数は平均6.5年で、平均年齢は夫37才・妻又は独身女性36才であった。59世帯がNew York市周辺に居住し、職業は会社員25・自由業11・研究者11・学生2名であった。2, 各種主食の一週間の摂取回数: 米飯は三食共に日本に比して米国では約1回減少したが、朝1.4・昼1.1・夜5.8回と根強い米飯への嗜好を示した。パンは三食共に米国で増加傾向を示し特に昼食は1.1から2.1と増加した。麺類は変化なく、その他米国では朝にセリアル、昼にピザ・スバゲイ類の増加を示した。3, 米国で日常的に食べるようになった食品: 穀類(セリアル・多様な種類のパン)、獣鳥肉類(牛肉・仔牛肉・肉の加工品・ヒヨコ)、乳製品(各種チーズ・ヨーグルト・サワークリーム)。4, 調味料・香辛料: 68品目を調査し、日本で使用していた調味料のほとんどが米国に来て使用されており、新たにオレガノ・グローブ・トマトピューレ・チリパウダー等多くの西洋料理用の調味料・香辛料が使用されている。5, 外食: 昼食はハンバーガー・ホットドック(30%)が多く、夕食は日本料理(29%)・中国料理(25%)が多かった。

考察 日本食料品が入手し易い地域であることも一因であろうが、長期米国滞在日本人の根強い日本食嗜好の存在を認め、又ある程度の米国食生活への適応も認められた。